

平成26年度 魚沼市体育部 活動報告

部長 大淵 英一

1 研究主題 『フラッグフットボールの理解と実践の仕方について』

2 研究の概要

<第1回部会>

- 期 日 平成26年4月16日(水)
- 会 場 小出郷文化会館
- 内 容 ・会員の自己紹介
・年間活動計画協議

<第2回部会>

- 期 日 平成26年8月6日(木)
- 会 場 魚沼市立井口小学校
- 内 容 ・フラッグフットボールの理解と実践の仕方について



3 研究の実際

(1) フラッグフットボールの理解

「フラッグフットボール」はゴール型に属し、その中の陣取り型のボール運動である。ゴール型のボール運動は、技術的な難しさと戦術的な難しさがあり、全ての児童に楽しさを味わわせることが難しい。しかし、「フラッグフットボール」は、ボールを持って走ることができることから鬼遊びの延長として誰もが容易に楽しめるので技術的な難しさはない。そこで、戦術的な学習課題をクローズアップすることで知的な作戦づくりやチーム内の明確な役割行動、協力を児童が実感できるゲームである。これらを実践しながら、瞬時な判断と巧緻性も育てることができる教材でもある。

ルールの確認を「日本フラッグフットボール協会」発行のDVD視聴にて行った。ゲームをしていく上での必要なルールを順序立てて示しているのので、どの児童も理解できる内容であった。また、既に授業で実践した方から、児童を指導する上でのポイントを聞くことができ、有意義であった。

(2) 実技研修

①フラッグに慣れる

「フラッグとり鬼ごっこ」や「ボール運びリレー」のゲームを通してフラッグに慣れた。運動量も十分に確保できた。

②ハンドオフを学ぶ

「ボール渡しリレー」や「3対2ボール運びゲーム」でボールの受け渡しに慣れて、ボールの抱え方や相手に分からないような運び方を意識した。

③フェイク・ブロックを学ぶ

「3対2ランゲーム」や「3対2ボール運びゲーム(実践編)」では、相手陣地にボールを運ぶ作戦を立て、フェイクやブロックを有効に使うプレーを楽しんだ。

4 成果と課題

「フラッグフットボール」の教育的意義や価値を実感することができた。なじみがないことや走るゲームであることから、誰もが新鮮な気持ちで取り組めること、役割や作戦、声かけなどでどの児童にもチーム内での活躍がたくさんあることが確認できた。

課題は、年間指導計画に位置づけて、備品や自作教材を充実させ環境を整備していくこと、校内研修で実践のイメージをつかむことである。